

戦後日本の国際協力と今後の展開

東京大学東洋文化研究所教授

田中明彦

- *戦後の国際協力は3期に分けられる
- *賠償と国際社会への復帰から開始
- *ハードカレンシー不足で役務・資材提供が軸に
- *東アジア中心にODAが急増
- *橋、港湾などインフラ建設で貢献
- *農業支援でブラジルが大豆生産大国に
- *低成長時代にODAは大きく減少
- *人間の安全保障の比重が拡大
- *進む「日本的」技術の移転
- *力を入れた平和構築の試み



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
本日は年1回恒例となっておりますアジア平和貢献センターとの共催の講演会ということで開催させていただきます。

本日は東京大学の田中明彦先生に来ていただきました。ご存じの方も多いかと思いますが、簡単に経歴を申し上げますと、東京大学を卒業後にマサチューセッツ工科大学でM.F.P.を取得され、東大教授として務められた後、副学長をされ、その後に国際協力機構の理事長を務められました。現在は東大に戻られております。ご存じのように国際関係については日本でも第一人者でございますが、本日は「戦後日本の国際協力と今後の展開」についてお話をいただきます。

それでは共催団体でございますアジア平和貢献センターの西原先生に一言ご挨拶をいただきます。（拍手）

西原 ご紹介いただきました西原でございます。

経済倶楽部の講演会は今日もいつもと体裁はまったく同じでございますけれども、年1回、私どもアジア平和貢献センターとの共催という形にさせていただいて何年かたちました。私どもの人脈と経済倶楽部の人脈は重なるところが多いんですけれども、多少違うところがあるということ、共催という行事が行われるようになります。

本日は最近まで国際協力機構（JICA）の理事長をしておられました田中先生にご講演を